

中川ポンプ場下水熱回収施設建設事業

受賞機関 岩手県北上川上流流域下水道事務所

事業の背景

現在、岩手県の県都盛岡市では北東北のビジネス拠点としての盛岡駅西口地区都市整備事業が着々と進行している。この事業の一環として整備地区を対象とした地域冷暖房の「盛岡駅西口熱供給事業」が開始された（熱供給事業者：東北電力㈱）。この熱供給事業では「地球環境の保全」に配慮して、未利用エネルギーの有効利用を掲げていることから、本建設事業は「熱利用下水道モデル事業」として中川ポンプ場に下水熱回収施設を建設し、近年未利用エネルギーとして着目されている未処理下水から熱エネルギーを回収し、それを地域冷暖房用の熱源として供給するものである。

事業の概要

下水の水温は、一般に外気温度に比較して夏冷たく冬暖かいという特性を有しており、暖房時には温水製造の熱源として、冷房時には冷水製造の冷却水（排熱先）として有効である。本事業は下水（一次熱源水）の保有する熱を清水（二次熱源水）との熱交換により回収し、下水の持つ特性を生かして熱供給事業の熱供給プラントに設備されているヒートポンプの熱源（冷房時は冷却水）として有効利用するものである。主要機器構成及びシステムフローを、それぞれ表-1、図-1に示す。

表-1 磁器仕様

機器名称	仕様	台数	備考
一次熱源水取水ポンプ	吐出量	450 (m ³ /h)	5台 1台予備
熱源水熱交換器	交換熱量	1,440 (Mcal/h)	2台 暖房時
オートストレーナー	流量	900 (m ³ /h)対応	3台 1台予備
ボール洗浄装置	流量	900 (m ³ /h)対応	1台
4方弁	流路切替用		2台
排水ポンプ	吐出量	240 (m ³ /h)	2台 1台予備

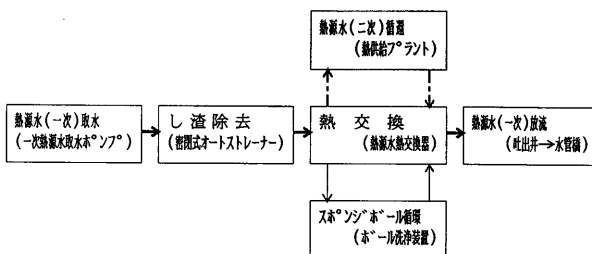


図-1 システムフロー概要

事業の特徴

1. システムの確立

熱交換の妨げとなる下水の性質に対して以下の対策を採り、未処理下水の熱交換設備として省力化と安定した



盛南大橋より中川ポンプ場を望む(中央が下水熱回収施設)

運転が可能なシステムを確立できた。

(1) 熱交換器の選定

構造が簡単で、伝熱管内の物理的自動洗浄が可能なシェル&チューブ形の熱交換器を採用。

材質は耐食性を考慮し、チタン合金とした。

(2) 熱交換器の閉塞防止対策

し渣による伝熱管閉塞の防止策として熱交換器の直前に密閉式のオートストレーナーを設置し、し渣を除去する方式とした。

(3) 熱交換器の伝熱効率の確保

伝熱管内面でのスケール、スライム層の生長による伝熱効率低下等の対策用の物理的自動洗浄装置としてボール洗浄装置を初めて未処理下水用に採用した。

2. 事業の効果

未利用のエネルギーである下水熱を有効利用することで次にあげるような効果が期待できる。

- ①省エネルギー効果
- ②石油代替効果
- ③大気汚染等防止効果
- ④防災効果
- ⑤節水効果
- ⑥ヒートアイランド防止

おわりに

一般的に都市排熱の2/3は大気中に、残り1/3は下水に放熱されると試算されている。

本施設は平成9年12月より東北地方初の未処理下水用熱交換施設として本格稼働したが、下水の持つこの潜在的に利用可能で膨大な未利用エネルギーを有効利用することにより快適で住み良い省エネルギー型リサイクル都市の形成に寄与することを確信する。

受賞賛助会員 日本鋼管㈱東北支社

既設矩形渠等の更生工法の開発及び 港区白金一丁目付近管渠整備工事

受賞機関 東京都下水道局施設管理部
東京都下水道局中部管理事務所

はじめに

現在、東京都区部の下水道管渠約15,000kmの内、50年の耐用年数を過ぎた管渠は全体の約13%、2,000kmにおよんでいる。この老朽化した既設管渠の更生は、円形管では各種の工法が開発されている。しかし、大口径の矩形渠や馬蹄形渠などについては未開発であった。

このようなことから、東京都下水道局共同研究実施要綱に基づき、平成8～9年度、民間3社（東京都下水道サービス㈱、積水化学工業㈱、足立建設工業㈱）と「既設矩形渠等の更生工法の開発」を行った。この成果をもとに、中部管理事務所では港区白金一丁目の老朽化した矩形渠を更生した。

更生工法の概要

本工法は、まず矩形渠内部で製管機を組み立て、スチール補強材を組み込んだ硬質塩化ビニール製のプロファイルを手回しから矩形渠に送り込み、製管機により新たな管を形成する。製管機は、ガイドフレームに沿って回転し、プロファイルは互いにかみ合い、新たな更生管ができていく。製管機は、分解してマンホールから搬出する。次いで、更生管の変形防止などのために支保工を設置し、既設管と更生管の間にモルタルを充てんし、既設管と一体化した強固な複合管とする。

港区白金一丁目付近管渠整備工事の概要

この矩形渠は、大正7～8年に施工されたもので、在来の溝渠を改修して暗渠化し、下水道用管渠としたものである。以来、約80年を経過してコンクリートの中性化や硫化水素による腐食などによって、コンクリートの欠落や鉄筋が一部露出する状況となり、その老朽化対策が急がれていた。工事の内容は、次のとおりで、所定の断面形状に仕上がり、工事は良好な成績を収めて完了した。

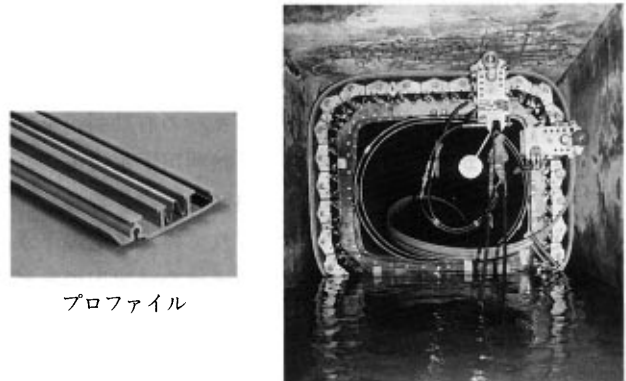
既設矩形渠：D1,670mm×H1,520mm

更生後の断面：D1,540mm×H1,370mm

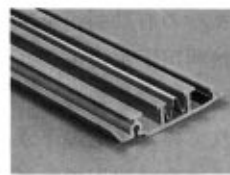
施工延長：128m

本工法の主な特徴とその効果

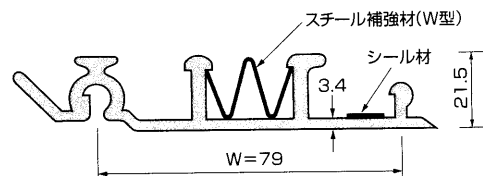
- ①開削工法と比較し、工事費がほぼ半減する。
- ②道路を掘削しないので、建設廃材が発生しない。



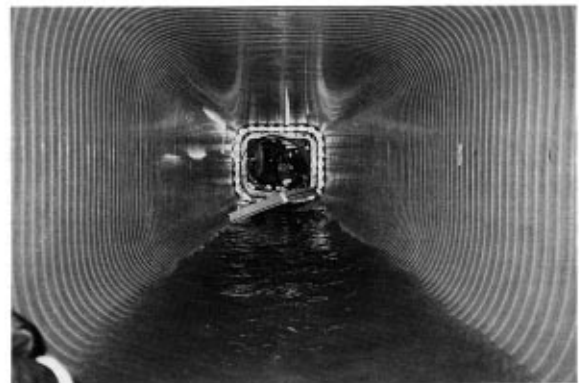
製管機（前面）



プロファイル



プロファイル断面図



更生管と製管機（後面）

- ③低振動、低騒音で工事が施工できる。
- ④下水を流下させたままでも更生できる。
- ⑤更生後は、下水道管渠の耐力の復元が図れる。
- ⑥矩形、馬蹄形等種々の断面に適用できる。

なお、更生後は断面が一回り小さくなるが、内面がコンクリートから塩化ビニルに替わり、粗度係数が小さくなるので、流下能力はほとんど変わらない。

都市計画道路環状2号線街路整備事業

受賞機関 横浜市道路局街路部特定街路課

はじめに

横浜の道路は、港を中心に市街地が発展してきたことや、丘の多い地形的な条件が背景になって主に放射状の道路が整備されてきた。市の中心部などで発生している交通渋滞を改善するためには、放射状の道路を整備すると同時に、バイパスの役割を果たす環状道路を整備する必要がある。

なかでも横浜の市中心部をとりまき、バイパス効果の大きい環状2号線が担う役割は大きい。この度、市内で初めての環状型道路として25年の歳月をかけて平成10年3月30日に全線が開通（一部暫定）した。

事業概要

環状2号線は磯子区の国道16号から上永谷、東戸塚、新横浜を結び、鶴見区の県道川崎町田線までの延長24.5kmの道路で市中心部から5～6kmの距離を取り囲むようにのびる。市中心部から郊外に放射状に伸びている横浜逗子線や横浜鎌倉線、国道1号、横浜新道、保土ヶ谷バイパスなどの多くの道路と接続する。また、JR「新横浜」駅をはじめとする交通拠点とも接続している。

環状2号線の標準的な幅員構成は42m。片側3車線で計6車線の車道と幅員9mの歩道となっている。広い歩道には「欒（ケヤキ）」の木を中心とした様々な樹木を組み合わせた植樹帯を整備している。放射状の幹線道路とは立体交差し、中央4車線が立体となり、両側4車線が幹線道路と直接アクセスする。

整備効果

次の整備効果により、横浜市の道路交通体系の大きな骨格となり、交通の流れを大きく変えることはもとより、横浜経済を活性化し自立性を高めることにもつながると考えている。

①バイパス効果

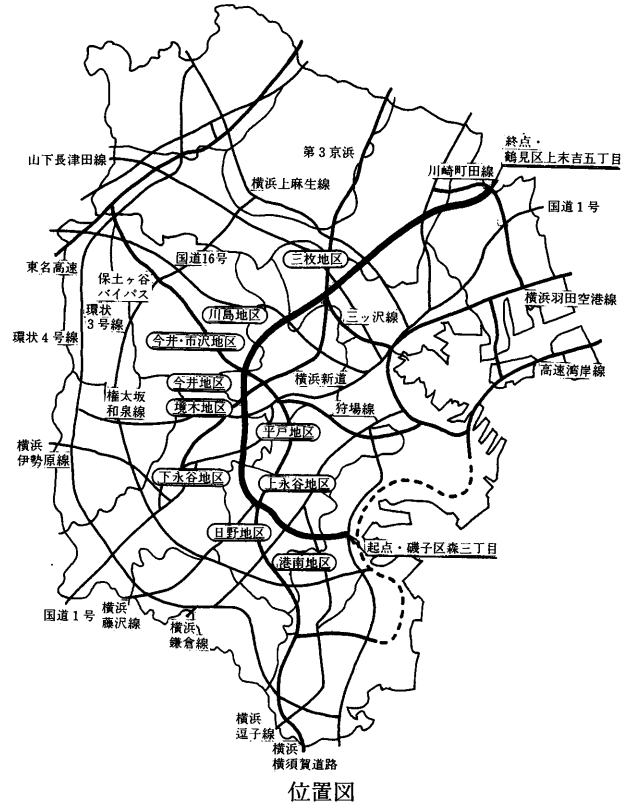
市中心部を通過していた車が環状道路を経由することにより他の道路に流れるため、市中心部の交通混雑、走行時間の短縮に結びつく。

②アクセス効果

市中心部に入りしていた車も、環状道路を利用することによって最寄りの幹線道路を選択できるため、渋滞の緩和と走行時間の短縮効果が期待できる。

③地域相互の結びつき強化

郊外の地域同士の結びつきにより、市域のバランス



国道1号と立体交差する「平戸高架橋」

のとれた発展を促進する。

④土地利用の沿道促進

沿道での計画的な街づくりを促進し、土地の高度利用を図ることができる。

⑤市民生活の利便性の向上

通勤・通学・買い物などへの利便性が高まるとともに経済活動が向上する。

新潟県立植物園整備事業

受賞機関 新潟県土木部都市整備局都市計画課
新潟県土木部都市整備局営繕課

はじめに

新潟県立植物園は、県都新潟市の南に隣接する新津市の秋葉丘陵に位置している。この植物園は、新潟県における都市緑化推進の中核施設として都市緑化の普及、啓発、推進を図り、「緑豊かでうるおいのあるまちづくり」に寄与するとともに、雪国新潟県において四季を通じて県民に「花と緑のあふれたいいこの場」を提供することを目的としたものである。

事業の概要

事業年度：平成4年度～平成9年度

総事業費：76億円

整備手法：地域づくり推進事業

施設規模：全体面積 19.8ha

鑑賞温室 3棟（延床面積 3,812m²）

情報センター（延床面積 908m²）

育成温室（延床面積 1,534m²）

施設の特徴

鑑賞温室は3棟からなり、その規模は国内最大級の大きさである。

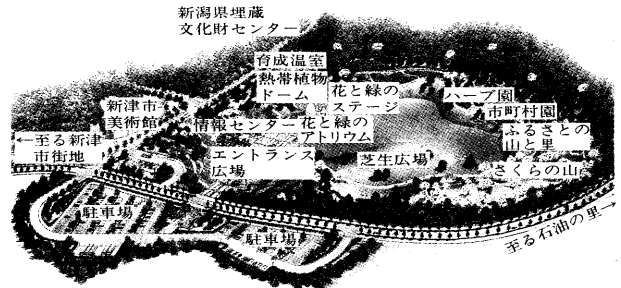
「熱帯植物ドーム(第1室)」は、熱帯雨林地方を題材に熱帯植物をありのままの姿で展示し、岩山や滝、池、洞窟を配置し、自然景観をリアルに体験できるものである。構造は光の透過性を良くするためにアルミトラスとサッシュが一体となったシングルレイヤー構造を採用しており、アルミ構造体ドームとしては、国内最大(直径42m)である。

「花と緑のステージ(第2室)」は、空中・水中・通路等に様々な花卉(かき)類・葉物類を美しくデザイン展示し、鏡や照明を使い、人工的な「幻想の世界」を演出する。

「花と緑のアトリウム(第3室)」は、温室内に落葉花木を取り込んだ都市景観を演出し、室内・窓辺・ポーチ・街並み等、花と緑のある生活がいかに魅力的で素晴らしいかを提案する場である。また、鑑賞温室の冷暖房には都市ガスを熱源としたコジェネレーションシステムを取り入れ、維持管理費の低減を図っている。

おわりに

当植物園に隣接して新潟県埋蔵文化財センター、新津市美術館及び遺跡公園が整備されており、全体として「花



新潟県立植物園



熱帯植物ドーム（内部）



情報センター・モニュメント

と遺跡のふるさと公園」となっている。これらの施設との連携を図り、自然豊かな背後の秋葉丘陵を植物園のフィールドと位置づけ、今までの植物園にない展開を構想している。

また、当植物園は平成10年8月1日から10月18日まで開催される「第15回全国都市緑化にいがたフェア」の新津会場となり、多彩なイベントが展開されるので、是非ご来場いただきたい。

受賞賛助会員 ㈱東芝新潟支店、㈱本間組

ぐんけ 郡家ポンプ場受水圧力発電設備設置工事

受賞機関 大阪府水道部北部水道事業所

大阪府営水道は、琵琶湖を源とする淀川を水源とし水道用水供給事業として村野浄水場、庭窪浄水場及び三島浄水場と、10箇所の送水ポンプ所、5箇所の高所浄水池の施設により、大阪府下の32市7町1村の約600万人に水道水を供給しており受水市町村の水源的役割を果たしている。

年間総給水量は、平成8年度において約6億tであり、それを供給するため使用する電気エネルギーは、約4.8kWhで関西電力管内の総需要電力量の約0.35%を消費し、その電力費は約56億円である。

そのため、従来から各施設の遠隔制御による集中管理システムにより計画的送水運用を行い、エネルギーの効率的な使用と電力費の低減化に努力してきた。

この様な情勢において、さらに水道システムにおけるエネルギーの使用実態調査を行った結果、郡家ポンプ場受水圧力発電設備設置の事業化について詳細な検討を行い、平成8・9年度において施工した。

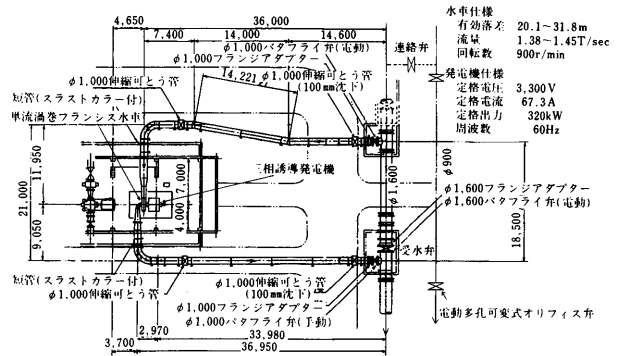
郡家ポンプ場は村野浄水場より約14km離れており、その間にある香里丘陵の高台を超えることや、管路の損失と分岐管による途中の受水市へ供給する受水圧力を考えると、村野浄水場からの送水圧力は40m以上で送る必要があり、郡家ポンプ場受水地点での圧力が約30m程度残る。

受水圧力発電は、この残圧を有効に活用するために設置したものである。

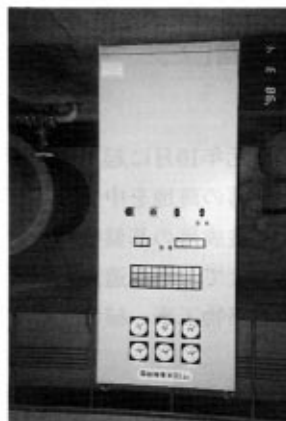
なお、村野浄水場より郡家ポンプ場へはφ1600mm及びφ900mmの2本送水管で送水されているが、途中数箇所連絡弁により連絡し合成管として運用している。

水車発電機は建屋に近いφ1600mmに設置して、発電機等の故障による水量の制限等で水需要に支障をきたさないように受水弁を直送弁とし、その上流より取り込んで下流側へ返す配管を新設して水車発電機へ導水した(第1図)。

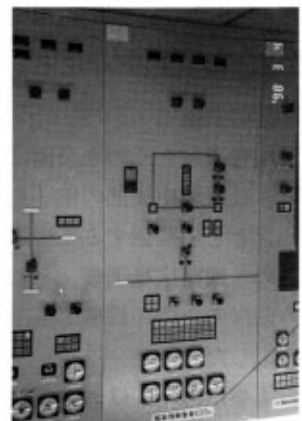
水道水の需要は夏期と冬期においては20%以上、また時間によっても大きく変動するものであり、その需要時に必要な水を供給するのが使命であるが、水量の変動によって受水圧も変動して発電が不安定になるため、φ900mmに制御性能に優れた電動多孔可変式オリフィス弁を設置して、予め受水量を3段階にわけてそれぞれの最適な



第1図



受水発電監視制御盤



受水発電現場機側盤



横軸単輪単流渦巻フランシス水車と三相誘導発電機

目標受水圧力を設定しておき、圧力の自動調整を行い発電の安定化を図っている。

発電機は補修期間を除いて連続運転を行い、年間約2,700万円の電力費を節減できる。

国営讃岐まんのう公園整備事業

受賞機関 建設省四国地方建設局国営讃岐まんのう公園工事事務所

はじめに

四国初の国営公園「国営讃岐まんのう公園」が平成10年4月18日に開園した。

国営讃岐まんのう公園は、四国地方の広域的レクリエーション需要に対応するため設置した都市公園で、計画地が、弘法大師(空海)とゆかりの深い日本最大のため池「満濃池」に隣接する自然豊かな丘陵地であることから、その土地が持つ風土を活かし「人間との語り、自然・宇宙とのふれあい」を基本テーマに設定、人間とそれを取り巻く基盤の関係をもう一度見つめ直すきっかけとなるような公園づくりをめざし、昭和59年度から事業を進め、全計画面積350haの内、中央広場ゾーン「竜頭の里」、宿泊ゾーン「オートキャンプ場」、環境保全ゾーン「竜頭の森」の一部からなる80haの区域を初めて部分開園した。

事業の概要

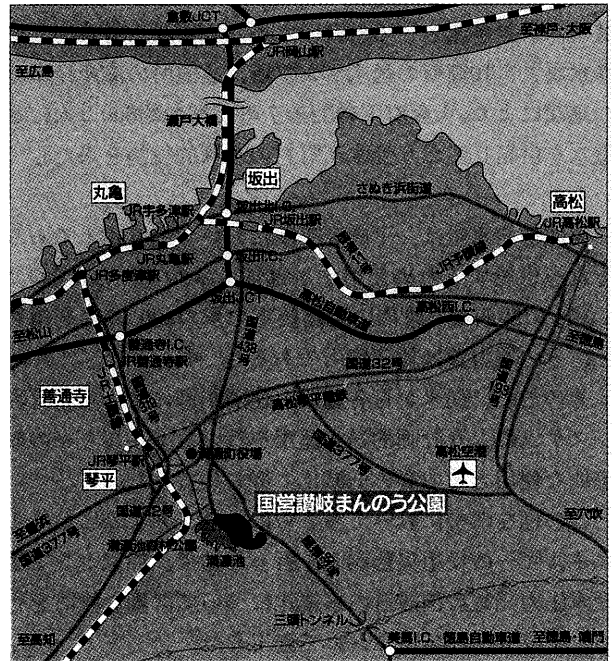
国営讃岐まんのう公園は、平成元年10月に起工式を行い、丘陵地中央部の旧「竜頭」部落の跡地を中央広場ゾーンとして整備する工事に着手、造成等の基盤整備をはじめ、園路広場工事、それにあわせて上下水道、電気等の確保のための設備工事、各種建築物工事、植栽工事を施工した。

工事にあっては、大規模の造成工事等为避免自然をできる限りそのまま活かすこととし、造成対象区域内にあった大径樹林約500本も特殊機械を導入して移植、園内の緑として活用したほか、下刈り・間伐により発生した材木も、チップ化して散策路に敷き詰めるなど常に自然との調和を図っている。

第一期開園区域の概要

第一期開園時には基本テーマのうち特に「人間と自然とのふれあい」を来園者に実体験してもらうことをねらいとし、自然を身近に感じてもらう中央広場ゾーン、自然の恵みを実体験する環境保全ゾーン、自然に囲まれて実際に生活をしてみる宿泊ゾーンとして各ゾーンを位置づけ施設を配置している。

「竜頭の里」には、落差9mの人工の滝「昇竜の滝」をはじめ、四季折々の花と3万株のハーブが楽しめる「風花の庭」、子供達が自然の中で思いっきり体を動かして遊べる「竜の子広場」、大人向けには園内の自然素材を使って陶芸、草木染め、竹細工などを体験できる「工房」、そ



位置図



昇竜の滝



オートキャンプ場の状況

してそこで作った物を楽しみながら静かに時を過ごせる「茶室」等がある。

「竜頭の森」では、かつての里山を復活し、たけのこ掘り、きのこ採り、炭焼き等を通して山の幸を実体験できる。

「オートキャンプ場」も、四国随一の規模と施設水準を有し、快適な自然の生活が楽しめるようになっている。

おわりに

本四三架橋時代という新しい時代の中で、国営讃岐まんのう公園は、広域観光ネットワークの中核をなすとともに、四国における文化・スポーツ・レクリエーションの拠点となり地域の活性化に貢献する公園である。

受賞賛助会員

(株)ガイアートクマガイ、佐藤道路(株)、(株)東芝、丸紅建設(株)

都市計画道路塩原野間線道路改良事業 (筑紫丘トンネル建設工事)

受賞機関 福岡市土木局道路部南部建設課

はじめに

本市の重要施策「西南部交通対策道路整備計画」の一環として整備を行った都市計画道路塩原野間線は、福岡市の中心部天神より南に4km離れた西鉄大牟田線大橋駅付近に位置し、福岡市南西部地区より南東部地区を結ぶ幹線道路である。また、本路線の北東に位置する野間四ツ角交差点が、県内随一の渋滞箇所であることから、この交差点の混雑解消のために、バイパス的役割をもつ、本路線の整備を緊急に行う必要があった。

事業の概要

昭和63年度に本事業の事業認可を取得し、その後建設のための技術検討を行いトンネル(オープンカット)工法を採用した。平成6年9月から本工事に着手し、平成8年3月までに仮設工事及び掘削完了、平成9年3月に本体工事が完了し平成9年5月供用開始を行ったものである。

事業概要は次のとおりである。

都市計画決定：昭和42年12月28日

事業認可：平成元年3月30日

事業期間：昭和63年度～平成9年度

事業延長：L=540m(内トンネル延長330m・張出式55m)

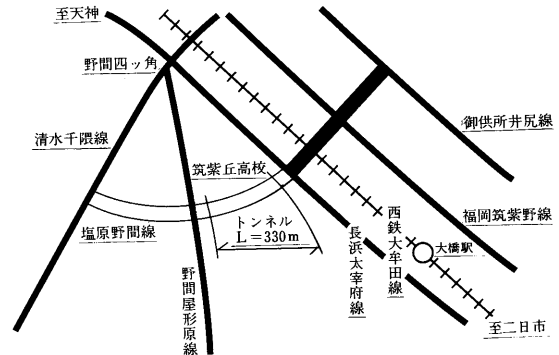
事業費：65億円(内工事費37億円)

事業の特徴

当地区は小高い丘陵地を開発し発展してきた文教地区(小・中・高・大学など7校)であることから、歩行者の安全確保・閑静な周辺住宅の環境保全のため、トンネル上部に生活道路を整備し、通過交通を処理する道路はトンネル構造の4車線道路として分離して整備した。

トンネルの計画にあたっては、延長が330mと比較的短いトンネルであるが曲線部であるため、車両の安全な走行を考慮し、当初は入口と出口を一定の勾配で結ぶ縦断勾配の線形で計画していた。しかし、当路線の整備について周辺の地元住民及び学校関係者から早期完成を強く要望され、工期短縮を行うため工法及び発注方法等種々検討の結果、トンネルの縦断勾配の見直しを行い、トンネル中央部の岩盤層の掘削を少なくすることにより工期の短縮を図る事が最良の案となった。

そこで縦断線形の見直しにあたり、車両の安全走行が確保できるのか検討を行うため、コンピュータグラフィックス(CG)を活用し、実際の運転者の視覚でシミュレーションを行った。その結果、当初計画と比べて安全性



位置図



工事着工前



完成



トンネル内



野間2丁目交差点側

に何ら問題ないことが確認できたので縦断線形の変更を行ったものである。変更を行った結果、工期の短縮はもとより工事費をも大幅に削減することができた。また、トンネル出入口付近の騒音による環境問題については、排水性舗装の施工により騒音の低減を図った。

おわりに

平成9年5月供用開始後の交通量調査を行った結果、周辺の道路の混雑緩和はもとより、慢性的な渋滞が見られた野間四ツ角交差点の交通緩和に大きく貢献している。また、トンネル工事については現道を通行させながらの工事であったため、歩行者及び通行車両の事故防止には特に配慮して工事を行った。その結果、約3年間の工事期間中無事故、無災害で工事が完了できたことは、工事関係者はもとより地元関係者の協力ならびに交通管理者の指導の賜と感謝する次第である。

受賞賛助会員 佐藤道路(株)九州支店、大日本土木(株)九州支店

防災都市緑地公園（緑町公園）整備事業

受賞機関 中津川市

はじめに

近年、都市化の歩みの中で、生活の根幹をなす「まちづくり」については「環境に配慮したまちづくり」「高齢化社会に配慮したまちづくり」「防災に配慮したまちづくり」など、調和、ゆとり、安全を重視し、物心両面に配慮した生活空間の形成につとめている。

特に中津川市においては、県下で唯一の地震強化地域であり、平成7年1月17日の阪神・淡路大震災を機会に地域防災計画の見直しや各種防災対策の強化に力を注いできたものである。

事業の取り組み

このような状況の中、中津川市中心市街地に位置する中津川市民病院の移転に伴う跡地利用について多くの利用計画案が検討された。

最終的に防災面を最優先した公園整備計画が採用され、防災避難地、イベント広場などの多機能空間の構築ということで、周辺には防災機能を持たせた上、子供や老人、そして身体障害者にやさしい公園というコンセプトで整備を進めた。

整備内容

①井戸水の再利用

古くからここで湧き出る井戸水を再利用し、太陽光発電によりポンプを稼働させ、新しく設置した耐震性貯水槽に導入することにより、防火や災害時の飲料水にも利用する。

②太陽光発電

太陽光発電により、ライフラインが地震などにより切断されても、最低3日間は公園内の照明やトイレの洗浄水が確保される。

③子供、老人、障害者に優しい

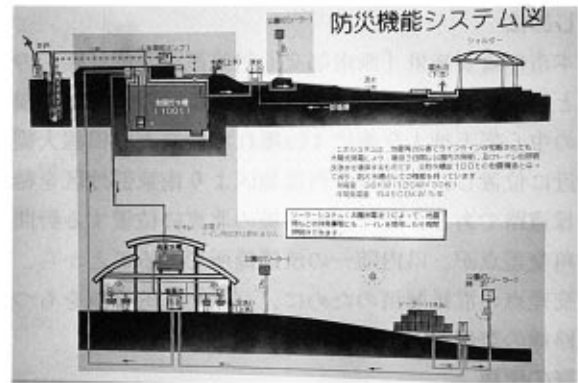
街の中には安心して子供達が遊べる空間が少なく、まして老人や障害者にとって皆無に等しいが、ここではそういった方々が安心してバリアフリーの芝生広場やせせらぎを体感できる。

④ステージ機能を持ったテント

耐震性のある安全性の高いテント形式のステージは普段の雨宿りの場所や仮設テント、イベントステージとして利用できる。

⑤多機能な広場

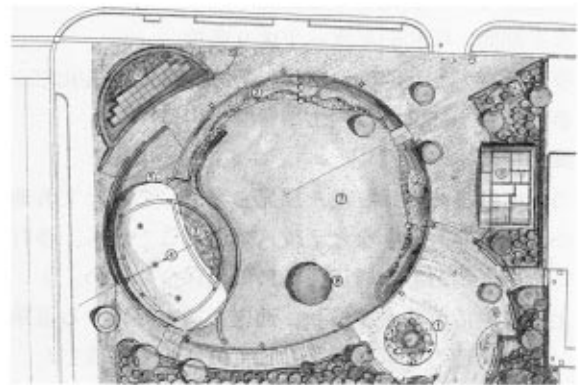
広場は砂場や運動場などの機能も持たせ、避難地はも



仮設テントにも使用出来るステージ



バリアフリーの池



鳥瞰図

とより幼稚園や保育園並びに町内会の運動会やイベント広場、さらに臨時駐車場にも利用でき、広場の砂は、災害時の土のうなどの緊急資材にも使用可能となっている。

おわりに

以上、普段は多くの市民が憩い、楽しむ場所として、そして災害時には避難の拠点として多機能に利用できるよう整備した。

今後、太陽光発電の増設や自家発電システムを導入することにより、災害時の情報受発信や水浄化も可能になり、本格的防災の拠点となるものである。

吹田都市計画事業佐井寺南土地地区画整備事業

受賞機関 吹田市

はじめに

本地区は、吹田市のほぼ中央に位置し、最寄り駅より大阪都心へは約25分程度の位置にある。

施行区域は、事業着手前は一部の住宅地を除く大部分が田、畑、竹林として利用されており、全体的に起伏にとんだ農耕地帯であった。

千里ニュータウン等の完成を契機として本地区においても市街化の動向が顕著となり、本市の基本構想である「すこやかで、心ふれあう文化のまち」に沿う良好な住環境をもつ秩序ある新市街地形成のため、土地地区画整理事業の手法により整備を行っている。

事業の概要

事業名：吹田都市計画事業佐井寺南土地地区画整理事業

施行面積：約45.0ha

事業期間：昭和58年度～平成14年度

*平成10年度～14年度は精算事務

総事業費：11,740百万円

減歩率：25.98%（合算減歩率）

公共施設の整備

1. 道路：都市計画道路（3路線）
 - ①W=12m、L=814m
 - ②W=18m、L=779m
 - ③W=22m、L=832m
- 区画道路（特殊道路含む）

W=2.5m～12m、L=832m
2. 公園：A=15,400m²（5箇所）
3. その他：緑地（2箇所）及び調整地（2箇所）

事業の特徴

本事業においては、宅地利用促進方策として集合住宅経営を希望される地権者の方々を地区中央の街区に集約換地している。その結果、地権者の方々が共同して商業施設を誘致し、現在、地区の核店舗としての大変な賑わいを見せている。

また、魅力ある街づくりを進める方策として「ふるさとの顔づくりモデル土地地区画整理事業」の導入を図り、吹田市の水にまつわる歴史を顔づくりのテーマとし、個性あるまちづくりを行っている。地区の中央を通る都市計画道路佐井寺片山高浜線と佐井寺南線を地区の表通りと位置づけ、その歩行者空間にせせらぎやかスケードを



佐井寺南地区竣工モニュメント「オンファロス(生命の誕生)」



佐井寺南線の「滝とせせらぎ」



佐井寺南線の「せせらぎ」



近隣公園（佐井寺南が丘公園）



都市計画道路佐井寺片山高浜線

設け、水の出るモニュメントや史実を伝えるモニュメントを配置し、吹田市の歴史を道すがら知るとともに新しい街にうるおいとやすらぎをもたらす空間として一種の博物館機能をもった道空間・ストリートギャラリーとして整備している。

おわりに

佐井寺南地区は、事業認可から14年の歳月をかけ平成9年11月に完成を迎えた。換地処分時には、すでに宅地利用率が80%を越え、賑わいのある市街化が図られている。

地区中央の佐井寺南が丘公園には竣工を記念し「オンファロス(生命の誕生)」と題されたモニュメントを設置しており、これは市の中心にできた新しい街の誕生と、街の将来にわたる発展を祈念したものである。

受賞賛助会員 飛鳥建設(株)大阪支店